Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

令和３年度
日本財団助成事業

医師・助産師・カウンセラー等
専門家による妊娠期からの虐待防止事業
実施報告

認定特定非営利活動法人はっぴぃmama応援団

令和４年３月

令和３年度 日本財団助成事業

医師・助産師・カウンセラー等 専門家による妊娠期からの虐待防止事業

実施期間：令和３年４月～令和４年３月
活動拠点：親とよいこのサポートステーション　はっぴぃmamaはうす

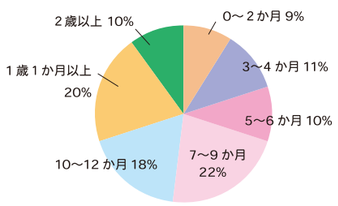
2021 年に始まった新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活様式の変化は、妊娠・出産・育児を取り巻く環境にも大きな影響を与えました。2 年が経過する現在、母子保健サービスは縮小された状態が定着し、人との接触を最小限にした中での支援が展開されています。当法人のコロナ禍における支援活動の内容と成果、その中で見えてきた子育てへの影響や今後予測される課題について報告いたします。

（１）育児相談会および子育て力向上講座

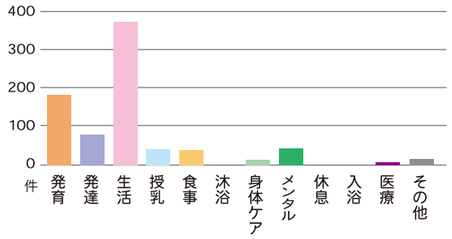
育児相談会や講座により、医師・助産師等に気軽に相談し専門的知識を得ることができ、不安の軽減や子育て力の向上を図る。

事業および対象者	内　容	開催回数・参加者数
① 育児相談会および居場所事業「ミニサロン」	専門職への育児相談会を開催しながら、同じような発達段階の乳幼児と養育者同士、交流することができる。まん延防止等重点措置期間中は、オンラインに変更して行った。コロナ禍より短時間・予約制・少人数（6 組程度）に変更。	122 回開催 延べ 530 組参加 ※妊婦 10 名含む オンライン開催 113 組
② 小児科医の発達相談会	居場所で、小児科医より病気のこと、身体のこと、感染予防など、子どもについてのテーマで知識提供を行い、母親からの質問に応える。対面とオンライン併用で実施。	12 回開催 延べ 53 組参加 ※オンライン参加 42 組含
③ 妊娠期から取り組む子育て力向上のための講座「マタニティクラス」	マタニティクラス　母親（両親）学級 妊婦や夫、その家族等を対象に、妊娠中の気になることや産後のことについて助産師による知識提供の場、参加者同士の交流の場ともなる。	4 回開催 延べ 5 名参加
④ 離乳食講座	離乳食開始直後や手づかみ食べの時期など、離乳食の進行の段階が近い児のグループを対象として、身体的発達についての知識の提供により専門職が母親の悩みに応えた。また他児と一緒に食べる機会を設け、気持ちや情報の共有、交流の場を提供した。	2 回開催 延べ 7 組参加

●育児相談利用者の月齢



●育児相談における相談内容



【参加者の声】

①育児相談会（ミニサロン）等
心配なことや、うまくいかないことなどをミニサロンで解消できるので、日頃安心して過ごせる時間が長くなりました。

②小児科医の発達相談会
どんな質問にもはっきりとお答えいただけたのですっきり解決して助かりました！
また、先生のお人柄も誠実で楽しい方でしたのでこちらもリラックスして質問することができました。

③マタニティクラス
初めての出産で不安なことばかり考えていましたが、できることをやれる範囲でやろうという考えになりました。

④離乳食講座
離乳食を食べなくて悩んでいましたが、アドバイスなど頂き前向きになりました。

（２）虐待防止のためのメンタルヘルス事業

子育て中の精神的負担を軽減し虐待防止、産後うつ等の予防のために、専門家が産後早期から関わり虐待・産後うつ等の早期発見・早期対応を目指す。

メンタルヘルス事業	内容・目的	開催回数・参加者数
① 座談会の開催	心理カウンセラーが進行を努め、6 組程度の少人数で気持ちを話せる座談会を設ける。講師：心理カウンセラー	12 回開催　延べ 54 名参加 オンライン開催 1 回 7 名含む
② 子育てに活かす心理学講座（虐待防止プログラム）	心理に関する知識提供を行い、参加者同士が話す場を作ることによって、自分自身に気づく等、精神的負担の軽減を図る。	24 回開催 延べ 70 名参加
③ 個別カウンセリング	心理カウンセラーによる個別のカウンセリングを行う（1 回 90 分程度） 非会員：通常 10,450 円→3,500 円　会員：通常 8,800 円→2,500 円	延べ 63 件

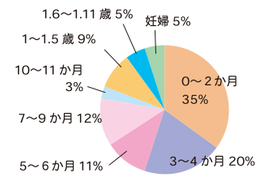
【参加者の声】
①座談会：なかなか相談できる場がないので気持ちを支えてもらっています。
②子育てに活かす心理学講座：自分の不安ばかりに意識がいきがちですが、少しづつ子ども自身がどうなのか？という風に
③個別カウンセリング：別々に思えていたモヤモヤとモヤモヤのつながりを示していただいたことで既に大きな発見があり、自分でどうにもならないと思っていた気持ちが腑に落ちました。息子を預かっていただいたおかげで、集中してお話できました。

（３）各専門家による個別相談

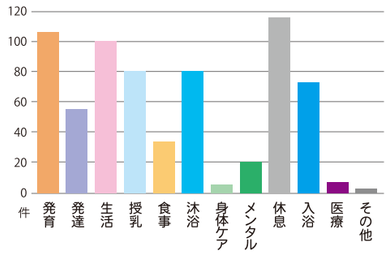
相談内容に応じて、専門職が個別で対応し、より個々に寄り添った支援を提供し効果的な支援を行う。
効果的な支援を実施することによって、心身の負担の軽減を図り、ネグレクト等の虐待防止、産後うつ予防等に期待したい。感染拡大時、妊産婦の孤立化を防ぐため感染症対策を講じながら個別対応は継続した。

事業および対象者	内　容	開催回数・参加者数
① 妊産婦育児相談	1 回 30 ～ 90 分 相談内容に応じて専門職（助産師･保健師･看護師等）が個々の相談に応じる。 希望時、オンライン相談対応	延べ 66 名 ※オンライン相談 5 名含む 産前 10 名　産後 56 名
② デイケア（日帰り型滞在）事業	9:30 ～ 15:30 利用可。昼食付。希望者送迎支援あり。 児は専門職が預かり、母親は入浴や個室で休息をとることができる。 専門職への妊婦・育児相談も可能であり、心身の負担軽減を図る。 上の子を連れての利用も可能。保育士により保育対応可能。 通常会員 13,000 円、非会員 15,000 円 を 1 回 3,000 円（回数制限料金あり）	実人数 68 組　延べ 130 組 産前：実人数 3 名　延べ 6 件 産後：実人数 65 組　延べ 124 組 送迎支援：46 名
③ 訪問ケア事業	希望者宅へ伺い、要望に合わせてのケアを行う。 （妊婦育児相談、沐浴支援、メンタルケア等） 通常 1 回　会員 8,500 円、非会員 9,500 円を 1 回無料（お 1 人 1 回限り）	実人数 33 名　延べ 34 件 産前：実人数 6 名　延べ 6 件 産後：実人数 27 名　延べ 28 件
④ 理学療法士によるボディメンテナンス	1 回 60 分 個々の身体状況により理学療法士が施術を行う。	延べ 14 名

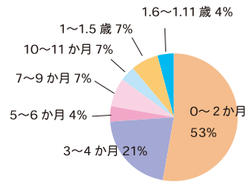
②デイケア利用者の対象児の月齢



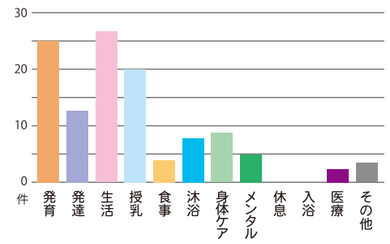
②デイケア利用時の利用目的およびケア内容



③訪問ケア利用者の対象児の月齢



③訪問ケアの際の利用目的およびケア内容



【参加者の声】

①妊婦育児相談
●欲しいと思っている情報をしっかり受け取れて、不安点をたくさん話すことで、出産に向けて気持ちを整える事ができました。

②デイケア
●子どもから離れて寝ることで熟睡でき、すっきりとしました。子どもの世話が億劫になっていましたが少し改善されました。
●育児は他者に頼っていいんだ、と思わせてくれて心が軽くなった。

③訪問ケア
●上の子にイライラしたり、イライラする自分を自己嫌悪したりして気分が不安定でしたが、お話を聞いていただいて自分の気持ちも整理され、久しぶりに落ち着いて上の子と接することができました。ありがとうございました。
●コロナの影響で安産教室に参加ができず、とても不安を抱えていました。今回の支援のお陰で安心して赤ちゃんのお世話ができそうです。

（４）テイクアウトランチ提供

●延べ 662 個販売　通常 500 円

まん延防止等重点措置期間には、「応援価格」を設定し、予約制、時間指定にて施設へ来所しての購入とした。状況に応じて、車から降りずに受け取れるよう駐車場までスタッフが届け、非常に喜ばれた。

（５）他機関との広報活動

行政機関や民間企業と協働し、商業施設での育児相談会や妊婦体験会、季節のイベント等を活用し、チラシを配布し地域への周知を図った。

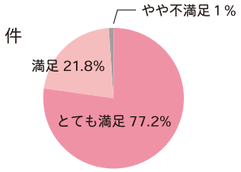
①行政（新潟市こども家庭課）協働
　商業施設で育児相談会開催や母子保健事業の情報提供（チラシ配布）
　施設の利用者約 350 組へ新潟市の母子保健に関する情報配布配布、育児相談

②民間企業（パルシステムときめき新潟様）との協働企画　年間 2 回開催　延べ 65 組参加
「ママも赤ちゃん♡ココロもカラダも元気になろう！」
「コロナ禍で考える。ママと赤ちゃんの防災」

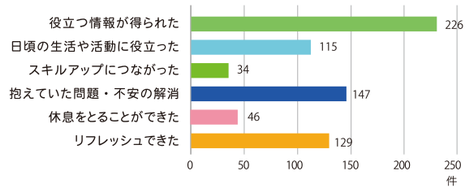
（６）事業参加者の満足度調査

1）事業への満足度

アンケート回収：299 件
※重複回答あり。



2）「とても満足」「満足」を選んだ方の良かった点
（複数回答可）



（7）コロナ禍における子育て家庭の現状と課題

コロナ禍における妊産婦・子ども・子育てへの影響

新型コロナウイルス感染症拡大が日本にも広がり全国で緊急事態宣言が出されてから、２年が経過している。この間に子育て支援の現場で見えてきた様々な影響や今後推測される問題点などを下記に記した。
（現場で感じられた当法人独自の予想の範囲である旨をご了承ください。）

〇コロナ禍であることでの影響
〇母親学級・両親学級等の中止・延期による影響
〇医療機関の受診制限等による影響
〇外出規制による影響
〇交流の場、相談会等への参加制限による影響
〇県外往来制限による影響
〇在宅時間増加による影響
〇消毒等感染症予防のための行動による影響
〇オンラインが広がったことによる影響
上記による不安や孤立化、精神的なイライラの増幅、知識不足
コミュニケーション不足、うつ傾向の増加など様々な影響が考えられ、
潜在的ニーズに応えるための支援の必要性が高まっている。

妊娠期からの関わりの重要性

妊産婦にとってコロナ禍からの状況は、不安や孤立感を更に強めている可能性が高い。

母親学級の縮小などで妊娠期からの母親同士の交流や専門職との関わりが十分に提供されていないのが現状である。両親学級など妊娠期からの交流や専門的関わりは、産後に関する情報を得られると同時に、夫婦で子育てをするという意識が育つなど、母性・父性への育ちへも影響を与え子育ての負担軽減にも繋がるものである。今後、母親の孤立化･ひきこもり･産後うつ等の予防のために、積極的な妊娠期からの関わりが重要である。

コロナ禍における「妊産期からの虐待防止」として
今後、顕在化してくる問題に予防的に関わるためのサポート

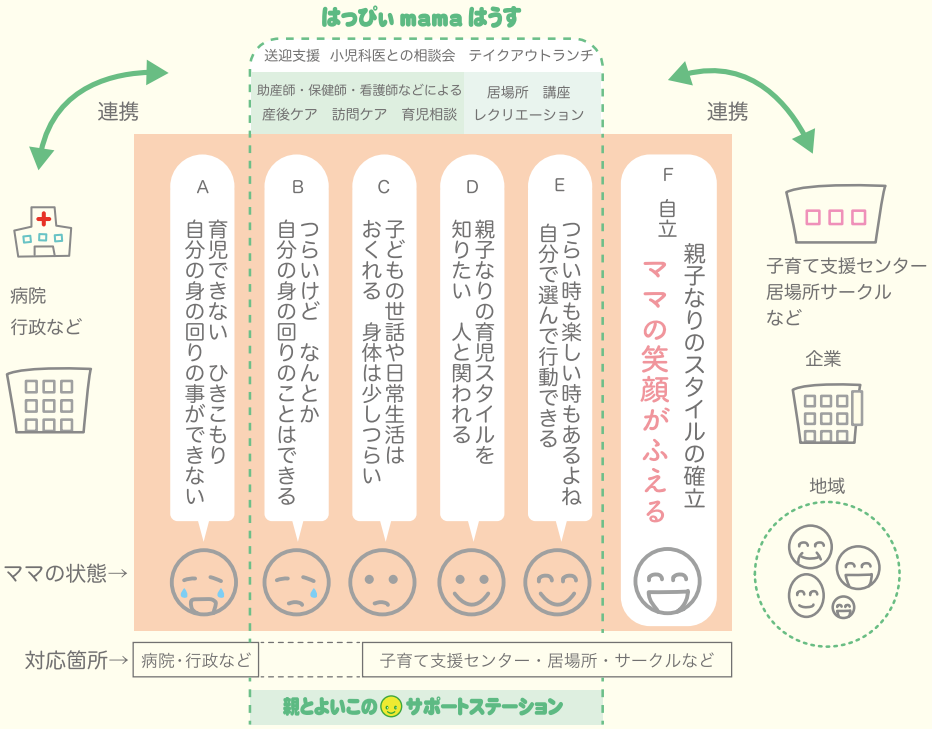
①身体的サポート
②メンタルサポート
③子育て技術の習得のための支援
④レスパイトの必要性
⑤支援体制の確保・強化

小児科医・助産師・保健師・看護師が 地域で手を繋いだ 「妊娠期からの切れ目ない包括的支援」

子育て中は誰もが図の Ａ～ Ｆ を揺れ動いています。

親とよいこの サポートステーション
はっぴぃ mama はうす

は、小児科医と助産師・保健師・看護師などの専門職が Ｂ･Ｃ のような少し辛いママの身体的・精神的なケアを提供できるところが最大の特徴です。
さらに、居場所や学びの場を提供し、その時々の状態に合わせた支援活動をしています。また、行政機関など他の機関とも連携し、地域の中でママの笑顔を応援する活動をしています。



子育ては、家庭だけでなく社会が守り育てようという日本で、感染症拡大防止のための新たな生活様式は、子育て家庭が社会と繋がることが困難になっていると言えます。親は、最初から親ではなく親子関係や社会の中で自然と子育て力が育つことも多く、乳幼児も親以外の環境との関わりが刺激となり成長発達が促されることもあります。現在は、このような機会が激減しており、その影響が出始めています。そのために、家庭で担う役割が今まで以上に大きくなっています。つまり、私達支援者は、親が子どもを育てることができるよう守り育てる役割があり、今まで以上に必要性を強めていると言えます。

現在のような社会情勢が不安な中でも､今私達にできることを常に考え子育て家庭をサポートしていきたいと考えています。今後も、いつでも駆け込み寺として地域に存在する「ネウボラ」として活動を継続していきたいと考えております。

最後に、日頃より、当法人の活動にご理解とご協力をいただいている皆様に厚くお礼申し上げます。
今後とも、よろしくお願いいたします。

令和４年３月
特定非営利活動法人 はっぴぃ mama 応援団

認定特定非営利活動法人 はっぴぃmama応援団　　代表理事　松山由美子
親とよいこの サポートステーション はっぴぃ mama はうす
〒950-0983 新潟県新潟市中央区神道寺 1-5-44 TEL 025-278-3177（月・火・木・金 10:00～15:00）
mail：npo.hmo@gmail.com　ブログ https://ameblo.jp/happy-mama-house
＜連携団体＞よいこの小児科さとう医院
ホームページ